

店の人が講師 専門知識伝授

第1回まちゼミin八幡



はんだごてでイラストを焼き付ける参加者と店の人(右)

第一回得する街のゼミナール「まちゼミin八幡」が2月1日から28日まで開催され、32の市内商店などの店主らが講師となり、参加者たちに専門知識などを伝授しました。



店の人(右から1人目と3人目)に教わりながら豆たみを作る参加者たち

「まちゼミ」とは、店の人が講師となって専門的な知識やお得な情報などを参加者たちに教え、こだわりや人柄などを知ってもらうことのできるまちのファン作りを目指す、全国に広がっている取り組み。市では、商工会の主催ではじめての開催となりました。

豊店でのゼミでは、花瓶敷きなどに使える豆たみ作りを実施。参加者たちは、店の人から畳に関する知識や道具の説明を聞いたり、作業を手伝ってもらったりしながら、オリジナルの豆たみを完成させました。

ほかにも、木のスパーンなどにはんだごてで好きなイラストを焼き付ける体験など、さまざまなゼミが行われ、参加者たちは店の人の人柄や店の雰囲気などを感しながらゼミを楽しんでいました。

豊店でのゼミに参加した本郷弥香さんは「畳作りの工程や道具などに興味があって参加しました。店とのつながりができると嬉しかったです」と話していました。



「節分を前にした2月1日、南ヶ丘第二保育園で節分行事が行われ、園児84人が商工会青年部の部員扮する鬼に向かって豆に見立てた紅白玉を投げ、今年1年の健康などを願いました。同会は、地域貢献の一環として、園児たちに伝統行事を知ってもらおうと、毎年、鬼役として市内の保育園や幼稚園の節分行事に協力しており、今年も4園を訪れました。

南ヶ丘第二保育園で節分行事

太鼓の音が鳴り響くと、園児たちが集まったホールに4人の赤鬼や青鬼が登場。突然現れた鬼に驚いて、はじめは逃げ回ったり、泣いてしまったりしていた園児たちですが、みんなが勇気を出して紅白玉を投げ、鬼たちを退散させていました。

最後は、鬼と仲直りして、みんな記念撮影。「はじめは怖かったけど、優しく話すと話すと、園児たちは節分行事を楽しんでいました。



地域の人と刺し子をする生徒たち

作業学習 交流深める

男山団地 だんだんテラスで実施

八幡支援学校高等部生活デザインコースの2、3年生13人が昨年10月から2月までの毎週火、木曜日、作業学習の様子を見てもらえる取り組み「46~7(よろうな)」を男山中央センター商店街内のだんだんテラスで実施し、地域の人たちとの交流を深めました。

この取り組みは、地域の人たちに気軽に

に立ち寄ってもらい、生徒たちが学習に取り組む姿を見て同校の教育を知ってもらおうと、だんだんテラスの協力を得て実施されました。

生徒たちは、訪れてくれた人たちをお茶やコーヒーなどの飲み物でおもてなししながら、織物や刺し子の作業を実演。3学期からは体験コーナーが設置され、地域の人たちも生徒たちと話したり、作業を手伝ってもらったりしながら、刺し子体験を楽しんでいました。

2年生の山村陽人さんは「(地域の人たちと)お話できて楽しい」と少し照れながら話していました。

古代の暮らしに思いはせ

「美濃山遺跡」見学会

京都府埋蔵文化財調査研究センターが発掘調査を行っている「美濃山遺跡」(美濃山出島)の現場見学会が、2月2日に地元の住民や小中学生向け、9日に一般向けに開催されました。

同調査は新名神高速道路の建設に先立ち、同センターが平成27年度から実施しています。今年度調査では、弥生~飛鳥時代の竪穴建物12基、飛鳥~奈良時代の掘立柱建物27棟を検出。壁面や底面が焼けた焼土坑15基も確認され、鉄器作りの際に生じる

小さな鉄片などが見つかったことから、遺跡はなんらかの手工業生産に携わった工人の集落だと考えられています。また、多数の土馬やひさご(ひょうたん)形土製品なども出土。ひさご形土製品は、同遺跡の東方に位置する「美濃山廃寺」でしか出土していないことから、同センターの職員は「工人たちが美濃山廃寺の造営に関わったのではないかと見解を説明するなどし、参加者たちは熱心に話を聞きながら、当時の暮らしに思いをはせていました。



竪穴建物跡を見学する参加者たち(2月2日)

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。